

「計画」

大津市立仰木中学校

令和 8 年度 我が校の学び力向上策

【県目標】 第Ⅲ期学び力向上滋養プラン 夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学び力を高める。 【令和 8 年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ ○発達の段階を踏まえた言語活動の充実 ○1人1台端末等の効果的な活用 ○自分に合った学び方を身に付ける指導の推進
--

【市町の目標】 ○一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育を実践する。

【学校の目標】 探究的な学びを通した課題解決力の育成 ～PDCAサイクルを意識した授業改善～

【現状と課題】 ○視点 1 (1) 学校評価アンケートの学校関係者提言において本校生徒は、「学習に対する意欲が高い」と評価され、学習に対する責任感が高いと言える。一方で、意欲や関心の向上（主体的な学び）において課題がある。生徒の学びの実感や思考を巡らせる楽しさが、教師のどのようなアプローチで実現できるようになるのかを探究する必要がある。 (2) ICTの効果的な活用による「協働的な学び」は充実してきているが、一人ひとりの学びの状況を把握し、探究的な学びを推進するツールとしての適時適切なICTの活用については、さらに研修や研究を推進していく必要がある。 ○視点 2 学校での学びが、生徒の「学びの実感」や「探究心」の向上につながっていない。協働的な学びや主体的・対話的で深い学びを充実させるためには、学び意欲を引き出す学習集団の基盤がしっかりできていることが必要である。 ○視点 3 日常的に教員間で授業や生徒に関する意見・情報の交流は比較的行われているが、組織的・継続的に共通実践していくために、校内OJT組織や校内研究の教科横断チームを中心に研修や研究を実施し、若手教員・中堅教員・ベテラン教員相互の指導力向上に努める必要がある。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート（児童生徒）「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点 1】子どもたちが主体の授業づくり	
取組事項	評価指標
①生徒が自ら課題や問いを創造し、主体的・意欲的に学び、解決しようとする、授業の創造	①-1 学ぶことの楽しさや大切さ、価値に気づき、主体的に取り組むことができたか 【研究授業後：教員・生徒アンケート 70%以上】
②「metamoji」の共有機能や共同編集機能等をはじめとする、ICTの効果的な活用による「協働的な学び」と「探究的な学び」の充実	①-2 生徒が主体的に取り組む、互いの考えを伝え合う喜びを感じ、コミュニケーション能力を育てる授業づくりができたか 【年度末取組アンケート（教員） 70%以上】 ② 探究的な学びを実現するためのICTの効果的な活用方法を実践・検証・改善することができたか 【校内研究会：教員アンケート 70%以上】

【視点 2】学びを支え合う集団づくり	
取組事項	評価指標
①心理的安全性の高い学級づくり (自己存在感・共感的人間関係・自己決定・居場所づくり、考え議論する道徳授業の実践)	・発達支援的生徒指導を土台として、道徳教育や学級でのグループ活動等を通して、互いに認め合い協力し合える集団づくりの実践ができたか 【校内研究会：教員・生徒アンケート 70%以上】
②「協働的な学び」の効果を高める学習集団づくりと授業実践	・生徒が主体的に取り組む、生徒が設定した課題の解決にむけて協働して取り組む授業づくりができたか 【年度末取組アンケート（教員） 70%以上】

【視点 3】協働して取り組む学校づくり	
取組事項	評価指標
①本校の重点目標：5つの「つなぐ」の実践	①学校づくりのための共通理解・共通実践が組織的・継続的に行われたか 【学校評価アンケート：自己評価・学校関係者・保護者評価 90%以上】
②校内OJT組織や校内研究の教科横断チームを中心とした研修や研究会を実施し、若手教員・中堅教員・ベテラン教員相互の指導力向上を図る	②校内OJT研修や校内研究の教科横断グループで研修や研究に取り組むことは、教員一人ひとりの指導力の向上を図るために有益であったか 【校内研究会後：教員アンケート 90%以上】

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

○4月の職員会議において学校長が教育目標や学校経営等について伝えて以降、5月の運営委員会にて学び力向上推進リーダーが「学び力向上策」について説明し、それぞれの取組事項に対する具体的な内容について協議する。
 ○5月の職員会議において、学び力向上推進リーダー（研究主任）が全教員に説明し、全員で取り組む具体的な内容について共通理解を図ったうえで、視点 1 については研究主任と情報化リーダー、視点 2 については研究主任と特活担当、学年主任、視点 3 については研究主任とOJT推進リーダーが中心となって、組織的に実践につなげる。
 ○年間を通じて、取り組みの進捗状況がわかるよう、職員室内に掲示スペースに随時掲示して可視化していく。
 ○視点 2 について、生徒指導や道徳主任、学活担当と連携し、OJT研修等の場を活用して各学年で集団づくりの取り組みを共有し、支持的風土を育てる。
 ○いずれの視点とも、各研究会・研修では事後アンケートを行い、その都度、反省・修正を行いながら実践を進めていく。